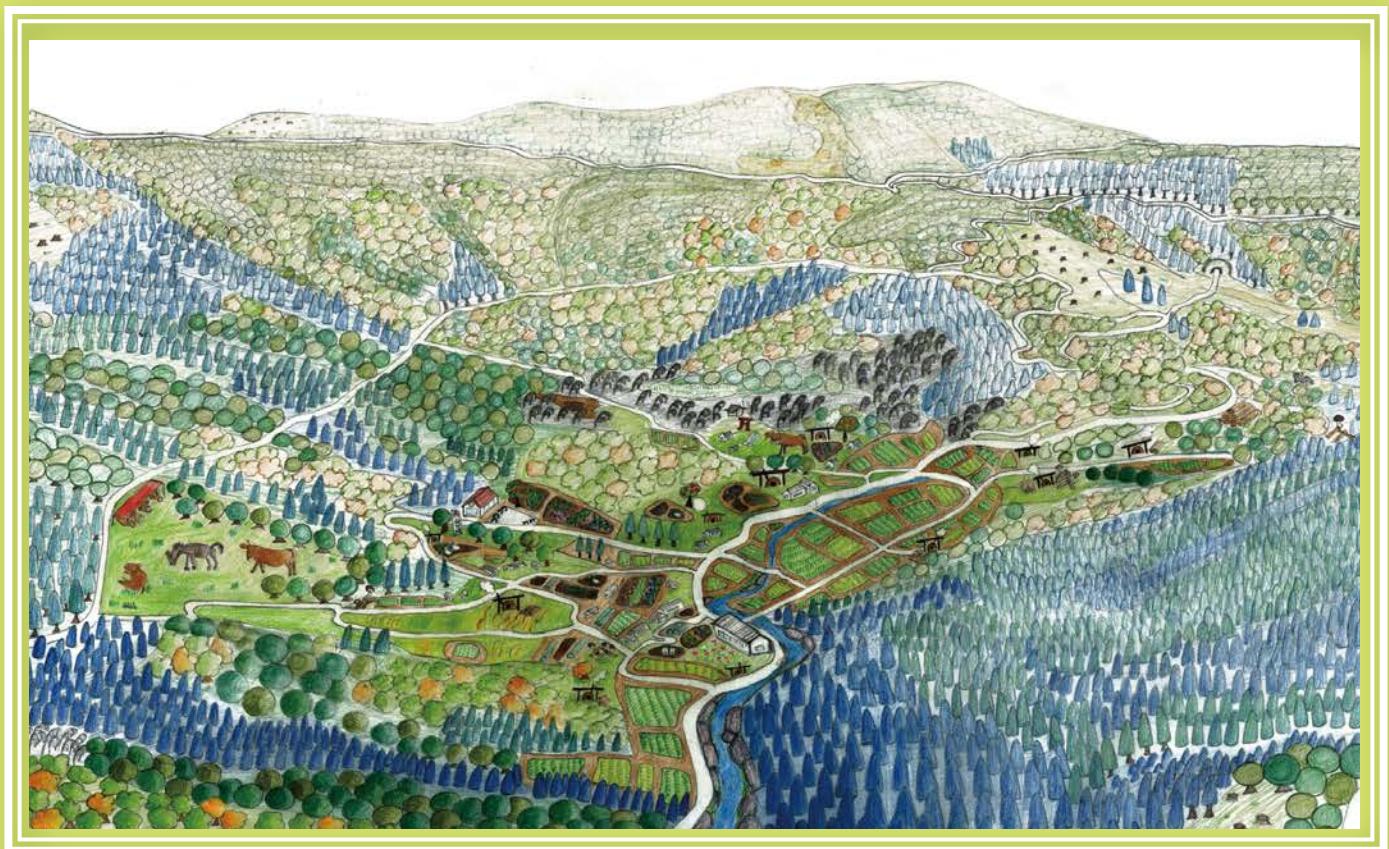


ツシマヤマネコと共生する 地域社会づくり

10年あゆみ



環境省九州地方環境事務所 長崎県 対馬市

はじめに

ツシマヤマネコは我が国では長崎県の対馬にだけ生息するネコ科の野生動物です。

1970年頃には300頭ほどが対馬全域に生息していたと考えられていますが、現在では100頭程度が上島を中心に生息していると推定されていて、環境省のレッドリストでは、絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧IA類に掲載されています。

ツシマヤマネコは、里山から奥山までの森林や農地、水辺など様々な環境を利用して生活しています。このような場所の多くは「里地・里山」と呼ばれ、長い期間人々が林業や農業などを営み、生活の場として利用してきた場所でもあります。暗い森から明るい森、水田や木庭作、草地など様々な環境がモザイク状に混在することが、ツシマヤマネコにとっても棲みやすい環境となっていたと考えられています。

しかし、人々の生活の変化に伴い、管理が行われていない森林や耕作放棄地が増えるなど人の手が入らない場所が多くなりました。このような変化により、エサとなるネズミ類等の小動物が減少し、ツシマヤマネコの生息環境が悪化していったと考えられます。

さらに、他のツシマヤマネコの減少要因の多くは、交通事故やイエネコ、イヌの影響など人間の活動に起因するものといえます。

このように、ツシマヤマネコの生息環境は対馬の人々の暮らしと関わりが深く、保護を進めるためには、人々の生活や地域の経済とツシマヤマネコの保護を両立させた「ツシマヤマネコと共生する地域社会」を実現させることが必要です。

このパンフレットでは、ツシマヤマネコを取り巻く状況や現在進められている取り組みについて紹介し、多くの方に「ツシマヤマネコと共生する地域社会づくり」に参加していただけるよう作成しました。

本パンフレット中で、出典記載のない図表・写真は、
共生と循環の地域づくりモデル事業報告書（平成16年度～18年度）及び、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくり検討業務報告書（平成19年度～25年度）、対馬野生生物保護センターHP資料による。

目次

1. 歴史と豊かな自然のある対馬の魅力 -----	1
2. 対馬の魅力を活かした地域づくり -----	5
3. ツシマヤマネコってどんな生き物？ -----	7
Column1. ツシマヤマネコを学べる施設 -----	8
4. ツシマヤマネコと共生する暮らしのヒント -----	11
Column2. 順応的管理システムによる効果的な事業推進-----	11
○森の暮らしとツシマヤマネコ -----	15
Column3. 対馬市の有害鳥獣対策 -----	18
Column4. 舟志区「舟志の森」とは-----	19
Column5. 舟志の森自然学校とは -----	24
○農の暮らしとツシマヤマネコ -----	25
Column6. 木庭作とは -----	26
Column7. 佐護ヤマネコ稻作研究会とは -----	30
Column8. 環境調和型ほ場整備 -----	31
Column9. 大学連携による木庭作の再生 -----	32
○里の暮らしとツシマヤマネコ -----	33
Column10. ツシマヤマネコと人の暮らし -----	34
Column11. 内山盆地の里やまねこ会とは -----	38
Column12. 対馬とんちゃん部隊とは-----	40
○全島展開を目指して -----	41
5. 人もツシマヤマネコも住み続けられる対馬であるために -----	43
Column13. ツシマヤマネコを絶やさないために -----	44